

職業奉仕月間によせて

職業奉仕委員会 委員長
木越 正司 (大阪西RC)

日本人は古来より個人より全体を重んじる精神が強い国民ですが、昨年の東日本大震災の時に見られた行動や、今年のオリンピックのように、水泳、女子卓球などで、個人戦もさることながら団体戦において、選手の強い精神力や団結力が発揮されその凄さにあらためて感じさせられました。この特異な力は、一体どこから生じてくるのでしょうか?何が日本人に備わっているのでしょうか?

ロータリークラブは、自分の職業を通じて社会に奉仕することを前提としています。わかりにくいですが考えれば簡単です。自分の職業に対する意識、すなわち職業観、職業精神をどのように持っているかです。企業の法令順守はもとより、各自が職業倫理に根ざして行動しているか?従業員、地域住民、お客様、仕入れ先の方々を大事にしているか?このことを常に自分の行動規範として持って仕事をしているかということです。これを内的奉仕(Internal Service)と言っています。

我々は 東北支援などの弱者救済、出前授業や職場体験学習などの教育実践活動を数多く行っていますが、このような活動は多くの企業や団体、NPOなども行っています。RCの行う奉仕活動とはどう違うのでしょうか?この命題を解くカギは前述したとおり、ロータリアンの活動が如何に職業精神に基づいて行動を起こしたものであるか、という点にあります。即ち、I Serve の理念、自らを律して他人に奉仕し、自らも利益を得ることの実践の場として行動するかということが、他団体との大きな違いであると思います。このような精神のもとで実施することを、外的奉仕(External Service)と言っています。これらの



内的・外的奉仕を組み合わせることで日常の職業に生かしていくことが、RCの職業奉仕といえるでしょう。

今年度も高島Gのもと、出前授業及び職場体験学習をさらに深耕させたいと考えています。出前授業では現在の学校教育では埋めることのできない道徳教育、働くことの意義や目的、将来への希望などを生徒らと共に考える機会を作るとともに、ロータリアン自身が教育実践を体験する場でもあることを認識していただきたいと考えています。高島Gの方針の中に、「職場体験学習・出前授業で職業奉仕、仕事の大切さを強調し、公共イメージと認知度の向上を目指していくこと」が示されています。

今年度もクラブ職業奉仕委員長には、自ら職業奉仕に関する卓話をお願いすると共に、クラブフォーラムにおいては「自分の職業において生じたトラブルや困難をいかにして解決したか」といった事例でわかりやすく語っていただければと思います。今年度は「わかりやすい職業奉仕を」というテーマで皆さんと共に考えていきたいと思っています。